

第 10 回日本舞台医学会学術集会在 2024 年 6 月 15 日(土)札幌医科大学臨床教育研究棟講堂において寺本篤史会長のもと開催されました。

舞台医学とは演劇、音楽、舞踊など様々な舞台芸術に対するステージ医学(stage medicine)とも呼ばれる新しい医学分野です。舞台医学の発展は、舞台芸術家のパフォーマンスと健康を支え、舞台芸術のみならず文化の発展にも寄与できるものと期待されます。スポーツ医学は世界的に確立しつつある医学分野である一方で、本邦における舞台医学の社会的認知度は未だ低く、舞台芸術に伴う身体、心身の問題に対する医療体制は整っているとは言い難いのが現状です。そのような中、2014 年に舞台医学研究会が初めて開催され、積み重ねを経て、昨年、一般社団法人日本舞台医学会となりました。第 10 回を迎える本会は学会設立記念大会、「新たなステージの幕開け」というテーマのもと盛大に開かれました。

プログラムでは理事長講演を田中康仁先生(奈良県立医科大学)に、特別講演を西良浩一先生(徳島大学)、本橋恵美先生(一般社団法人 Educate Movement Institute)にご講演いただきました。特別企画として演劇ユニット「TEAM NACS」森崎博之さんより「ステージ x 医学」のテーマで舞台俳優における怪我との隣り合わせの現場と医療サポートについて語られました。シンポジウムでは「パフォーマンス医学の進む道」と「ダンサーのトータルサポートについて考える」をテーマに舞台芸術に対する医療支援の現状と課題について多職種の先生方が議論されました。共催セミナーでは野口幸志先生(JCHO 久留米総合病院)より体外衝撃波治療の基礎知識から最前線の活用までお話いただきました。数多くの一般演題発表では全国各地の先生よりご発表いただき、大変充実した会となりました。学生含め総勢 144 名の参加者で賑わい、とりわけ若手の参加者が目立つ「新たなステージの幕開け」が感じられる活気溢れた学術集会でした。医師のみならず理学療法士、作業療法士、臨床心理士、舞台関係者、トレーナーといった多職種の方々の交流も多くみられ、今後の舞台医学のさらなる発展が期待されました。

閉会式では次期第 11 回日本舞台医学会学術集会会長、奈良県立医科大学スポーツ医学講座の小川宗宏准教授に引き継がれ、閉会となりました。来年の第 11 回学術総会の成功を心より祈念しております。

写真次ページ



